

2019 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校麻生医療福祉&観光カレッジの2019年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2020年1月31日

校 長 富田 博之

自己点検・評価責任者

校長代行 亀谷 弘幸

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 7 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 7 -
	基準 2 学校運営	- 8 -
	基準 3 教育活動	- 9 -
	基準 4 学修成果	- 14 -
	基準 5 学生支援	- 15 -
	基準 6 教育環境	- 16 -
	基準 7 学生募集	- 18 -
	基準 8 財務	- 19 -
	基準 9 法令遵守	- 20 -
	基準 10 内部質保証	- 21 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 22 -
	基準 12 国際交流	- 23 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

【教育理念】

「自主創造教育」

先入観や偏見などに捉われず、自主的にいきいきと学び、グローバル視野を持った人材を育成します。

「実践教育・キャリア形成教育」

専門職としての福祉・医療・観光サービス業界に必要な知識・技能・態度を備えた人材を育成します。

【教育目標（育成人材像）】

ホテル・ブライダル科

ホテル・ブライダル業界の接客サービスに必要な専門的知識や技能、語学力を身につけ、更にホスピタリティーマインドを備えた人材を育成する

エアライン科

航空・鉄道・船舶業界の接客サービスに必要な語学力、専門知識を身につけ、更にホスピタリティーマインドを備えた人材を育成する

医事スペシャリスト科

診療報酬請求事務を含む医療事務に必要な専門科目を中心に学び、幅広い知識と豊かな人間性が要求される医療事務職員を養成する。また、患者に対する適切な接遇マナーや迅速なコンピュータオペレーション技術など基本的要素をすべて取り入れた総合カリキュラムでより高い社会人としてのスキルを持った人材を育成する

介護福祉科

- ・人間性・社会性・専門性を備えた福祉業界のリーダーとなる人材を育成する。
- ・介護実践の根拠を理解し、あらゆる場面に対応できる力を習得した人材を育成する。
- ・2年間の知識、技術を深く理解し、国家試験合格を目指す。

国際ビジネス科

将来IT分野、ホテル・ツーリズム分野、介護福祉分野に就くための基礎知識を修得し日本社会で活躍できる人材を育成する、またその知識を身につけるための日本語力を持った人材を育成する。

【アドミッション・ポリシー】

1. 感謝と思いやりの心を持ち、何事に対しても熱意と情熱を持って取り組むことの出来る方
2. 社会の一員として、職業を通じて世の中の発展に役立ちたいと考える方
3. 相手の立場や考え方の違いを理解し、その差異を肯定的につけとめられる方

【カリキュラム・ポリシー】

(ホテル・ブライダル科)

本学科では、目的意識を持ち、自ら積極的に行動できる人材を育成します。志とチャレンジ精神を持ち、より高水準なサービスを実現させるための発想と基本技術を身につけ、社会に貢献できる人材を育成します。

1. ホテル・ブライダル業界で活躍できる人材に求められる専門知識、語学力、一般教養力、コミュニケーション能力などを学生が身につけることができるよう、必要な授業科目を設置し、教育目標にあわせたカリキュラムを編成します。
2. おもてなしの心を育み、多種多様なお客さまを尊重し、グローバル化する時代に合わせて顧客満足度向上に向けてきめ細やかなサービスを実現します。そのための言葉遣いや礼儀作法を身につけるためにマナー教育科目を設置します。
3. 業界のプロフェッショナルとして活躍できる実務能力を身につけることを目的とした企業インターンシップや国内海外研修旅行、模擬結婚式などの現場体験科目を設置し、将来のキャリア構築に向けた職業人としての自立を促します。

(エアライン科)

本学科では、目的意識を持ち、自ら積極的に行動できる人材を育成します。志とチャレンジ精神を持ち、より高水準なサービスを実現するための発想と基本技術を身につけ、社会に貢献できる人材を育成します。

1. 航空運輸業界で活躍できる人材に求められる専門知識、語学力、一般教養力、コミュニケーション能力などを学生が身につけることができるよう、必要な授業科目を設置し、教育目標にあわせたカリキュラムを編成します。
2. おもてなしの心を育み、高齢化社会や時代に合わせたきめ細やかなサービスを実現します。そのための言葉遣いや礼儀作法、介助サービス等を身につけるためのサービスマナー教育科目を設置します。
3. 実務能力を身につけることを目的とした企業インターンシップや国内海外研修旅行などの現場体験科目を設置し、将来のキャリア構築に向けた職業人としての自立を促します。

(医事スペシャリスト科)

本学科では、人材育成像に則り、目的意識を持ち積極的に行動し、思慮深く協働の精神を併せ持った人材を育成します。学生が主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実施します。

1. 医療事務員に求められる多分野の専門教育で即戦力となるスキル習得
2. 意欲的な心構え、目標設定チャレンジ精神について自ら考えるキャリア教育を教養教育により人間力を高める
3. 医療現場の意見と評価を踏まえ、多様な医療機関と幅広い職種から実習先を選び体験する実践的な職業教育を実施

(介護福祉科)

厚生労働省が定める、介護福祉士養成課程に基づき「一般教育科目」「専門科目」「実習」の3区分により構成された教育プログラムを展開します。

1. 業界見学実習、施設職員の特別講義を実施し、広く福祉業界を捉える実践的なカリキュラム編成により、業界で求められるスキル、マインドを養う教育を行います。
2. 单元ごとに、基本、応用の生活支援技術確認テストを実施し、根拠を理解した知識、技術の習得を行います。また、現場職員による事例検討講義により、ご利用者の生活に視点をおいた介護の実践力を養います。
3. 福祉業界で活躍できるよう、質の高いサービス提供を目指した接遇、マナー教育、強度行動障害支援者研修を実施します。
4. 国家試験合格を目指し、入学直後から国家試験対策を視野にいたカリキュラム編成を行います。

(国際ビジネス科)

本学科では、教育目標を達成するための「日本語教育科目」、就業する分野の「専門科目」を開設します。

1. 日本社会で生活、就業できるための日本語能力、JLPT N2の取得を目指します。
2. 就業する分野に必要な基礎知識の修得を目指します。
3. 日本社会で日本人とのコミュニケーションを円滑にするために必要な文化や社会習慣の理解向上を目指します。

【ディプロマ・ポリシー】

本校では以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定します。

1. 専門知識・技術および、専門職として健全な倫理観を備えていること
2. 感謝心と志を持ち、各業界で活躍・貢献しようという熱意をもっていること
3. 多様性を受け入れるマインドを持ち、グローバル社会でのコミュニケーション能力をもっていること

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 教員の指導力向上のため、組織的な授業改善を実施
- ② 業務の効率化を促進する
- ③ 留学生に対する相談支援体制の整備

2. 取組み状況

- ① 教員全体の教育力向上の為に外部有識者による専任講師の授業見学を前期に全員実施した。その結果を各自にフィードバックし、改善点を明らかにすることで、各教員はより良い授業運営を行うことができている。後期は、学校責任者ならびに専任講師間でも授業見学を実施し、お互い情報交換や授業の改善点についてアドバイスしあった。
- ② 新しいシステムでは、教務と事務局で学生情報を共有できる機能が新たに加わった。ガイダンス記録や出席状況などを把握することで、担当者以外のものも学生ガイダンスなどを実施することができるため、業務を助け合うことができる。また、「ノー残業デー」を毎月1日設けることにより、ワークライフバランスが実現できるようになっている。
- ③ 今年度より、留学生専科が新設されたことにより、留学生への対応を担当、学生課、日本語教育センターと連携し合い、相談内容に応じた専門的なアドバイスが実施できている。

3. 総括（成果と課題）

- ① 授業見学を実施したことで、担当科目の学習目標到達の手法や、効果的な指導方法を更に意識した授業内容を検討するようになってきた。一方で、教員間で授業力の隔たりが一部見られる為、今後は、研修等も計画し全体の底上げを行っていく。
- ② 校務分掌においては、経験者中心に担当が組まれていることが多い為、今後は少しずつ各自が担当する業務分野を広げられるような、機会を提供することで業務の属人化を緩和していく。また、学科統合にあたり各学科で業務体制を見直し、引継ぎマニュアルや記録を残す。
- ③ 留学生支援については、より良い体制作りを今後とも継続するとともに、日本語力向上のための課外授業の導入や、指導体制を検討する。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

- ・本校は、社会の変化に対応できる良識とスキル・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として、また一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会に貢献できる人材=グローバルシティズンを育成することを目標として、教育活動、学校運営を行っている。
- ・建学精神に基づき、教育理念、目的および育成人材像を定めている。学校構成員は、朝礼で麻生塾の教育理念「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」を唱和している。法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目標・育成人材像、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーはホームページをはじめ、学校紹介パンフレット、オープンキャンパス、入学前ガイダンス等において、学内外への公表も行っている。
- ・学科毎のカリキュラム・ポリシーを見直し、学生、保護者にはオープンキャンパスや、オリエンテーション導入時など、入学直後から浸透している。

【課題】

学科毎のディプロマ・ポリシーについて、業界の将来像を考慮したものとなっているか再検討が必要。

【今後の取組み】

新任の非常勤講師については、講師会等の機会を用いて学科の教育目的・育成人材像について個別説明をおこなう。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====

基準 2 学校運営

=====

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

- ・本校の運営方針は年度毎に経営会議の承認を得たのち、運営方針・事業計画書を教職員対象のキックオフミーティングで周知している。
- ・事業計画書については関連部署と連携して検証の上、運営方針に沿ったプランを策定している。
- ・法人としての定例会議や学内における学科会議、リーダー会議、全体会議など定期的に共有、検証の場を設け、進捗の共通理解を深め効果的な施策を実行している。
- ・人事部門と連携し適正な人事制度、規程および給与制度の運用を行っている。
- ・教員募集について、適宜部門毎のニーズをくみ取り、人事部門と連携して費用対効果を検証し対応を行っている。
- ・事務組織においては業務分掌を随時更新し運営に応じた機動性のある体制を整えている。

【課題】

- ・人事制度、規程の理解が完璧ではない。

【今後の取組み】

- ・教職員に法改正の対応により改定が著しい人事制度、規程への理解を深め、更に法令遵守の徹底された職場環境の充実を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	A
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S

=====

基準 3 教育活動

=====

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

- ・学科毎に教育目的および育成人材像に基づきカリキュラム・ポリシーを明示し、教職員および学生に周知している。また、教育課程編成委員会においても、育成人材像にそったカリキュラムになっているかの意見を参考に検証を行っている。
- ・ディプロマ・ポリシーに関しては、全体共通の内容になっている部分がある。

【課題】

業界のニーズを踏まえ、より実践的なカリキュラムを適切に提供していく。また、時代に応じたカリキュラムやディプロマ・ポリシーについても適宜見直しを検討する。

【今後の取組み】

学科統合を2年後に控えるため、本校においてのカリキュラムの見直しは先送りとなる。業界から育成人材像については随時、聞き取りをおこなっていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

- ・厚生労働省指定規則による養成課程の学科をはじめ、それ以外の学科に関しても教育課程の編成・実施の方針に基づいて、授業科目を適切に開設している。科目とコンピテンシーの対応表は作成されているが、カリキュラムマップとして体系化されていない。
- ・教育課程編成委員に就任されている企業等の方から業界のニーズを取り入れ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を提供している。
- ・教育方法および学習指導はシラバスに基づき実施されており、受講する学生へは開講時に提示し説明している。授業内容については、授業報告書にて各クラスの担任が定期的に確認し、科目担当者との報告内容に関して必要に応じて口頭での確認をおこなっている。実施報告書記載がなされないものがある。
- ・リメディアル（導入前教育、補習）として、入学前の学生は Web で履修できる「ASO ドリル」と、学科別に専門分野に関する基礎的な課題を出している。
- ・実践的な職業教育（インターンシップ、企業と連携した実習・演習）は、事前研修、実習中指導（帰校日指導）、実習後振り返り報告会等と体系化されており、全学科（国際ビジネス科を除く）で実施している。
- ・キャリア教育を入学直後から行い、学生の社会的・職業的自立に向け基礎的基盤となる能力や態度を育成し、キャリア発展を促している。

【課題】

- ・入学前の学生に関する Web 履修の「ASO ドリル」については学生の取り組みに差がある。
- ・コマシラバスに添った授業に関する実施報告書の記載がなされていないものがある。

【今後の取組み】

- ・2020年度新入生を最後に、学科統合となるため、シラバスやカリキュラムについては学科毎に授業内容や学修評価方法について振り返りを行う。
- ・カリキュラムマップの早期作成。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	B
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

- ・前期は外部有識者による授業見学を実施し、具体的な改善点を授業内容、手法、教材など細部にわたって見直しを行うためのフィードバックをうける機会を設けた。
- ・後期は学校責任者による授業見学と、教員間での相互授業見学を実施。授業評価シートを用い、評価観点にのっとり点数化することでより効果的な授業を再構築する為のアイデアを共有しあった。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

継続的に授業見学を行い、教育力向上のための機会とする。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

- ・成績評価に関する規程および進級・卒業に関する規程によって、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、すべて「学生便覧」「学生要覧（介護福祉科）」に明記され、学生に対して入学後のオリエンテーション等の機会を通じ、周知している。
- ・全科目のシラバスにおいて、成績評価規準と評価方法は明記されて周知し、これらに基づいて適正に成績評価・単位認定を行っている。
- ・進級・卒業に関しても、進級・卒業判定会議において認定・記録され、学生管理システムに登録・管理している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

引きつづき、規程に基づいておこなう。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

- ・厚生労働省や文部科学省などの法令や指定規則に則り、かつ学校の理念・教育目的の達成に必要な教育課程の種類・分野や学生数を考慮しながら、専攻分野を教授するために必要な教員組織を構築している。また、授業科目と担当教員の整合性や要件を、履歴書・職務経歴書・保有する資格を証明する書類などにより、確実に判断している。
- ・教員の組織体制については、系毎にリーダーを置き、医療系、観光系、福祉系の3部門に分かれた組織体制を整備している。
- ・教員の専門性や指導力などの維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげている。
- ・教員に対して指導力向上、専門力向上のために企業と連携した研修も行っている。

【課題】

各教員に必要な研修について、学内のみならず学外での受講を計画化する。

【今後の取り組み】

業界関連の研修については、参加者と勉強会を実施することで、共有の機会を得ることを計画する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

- ・医療福祉業界の就職は、欠員採用といった求人の特徴があり、担任と就職グループが密に連携を取って進めており、ミスマッチを防ぐ為の事前訪問や卒業生との情報交換を行い、個別性を重視して指導・支援をおこなっている。
- ・検定・資格試験は、授業計画に則り、プロジェクトベースで教員が関わり、進度別、習熟度別、分野別など、さまざまなアプローチで目標の合格率を出している。
- ・卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果については、企業アンケートなどにより就職担当者や教員で情報を共有し、それを踏まえて教育活動の改善に役立てるようにしている。
- ・卒業生の専門分野における社会的評価については、企業アンケートは行っているものの、卒業後1年程度の在籍調査に留まっている。

【課題】

企業アンケートにおける、卒業生の社会的評価については把握できていない。

【今後の取組み】

・企業向け卒業生アンケートの内容の見直しを行い、卒業後のキャリア形成への適応性、効果を確認できる内容に変更する。企業からのフィードバックを参考に、教育活動等の改善を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減	A

	の改善を図っているか。	
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。 また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	B
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	C

=====
 基準 5 学生支援
 =====

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

- ・生活面や進路に関して、多様性のある学生の在籍が増えているため、担任だけでなくチームで学生サポートを行う体制を整備している。
- ・学内に公的資格を保有したスクールカウンセラーを配置し、希望する学生にはカウンセリングを実施。また、健康面では毎年健康診断を受診している。
- ・経済的なサポートに関しては、授業料減免制度、麻生進級支援制度、日本学生支援機構奨学金を全学生に案内し、支援の充実を図っている。
- ・留学生支援としては担当教員により居住状況の把握やアルバイトへの助言、更に担当職員による在留カードの更新など取り次ぎ申請も適宜行い、留学生との信頼関係を構築している。
- ・卒業生支援に対しては卒業後、再就職斡旋を希望する学生にはキャリアカウンセラー有資格者が個別に対応し再就職の斡旋を行っている。

【課題】

- ・リスク事案発生時の体制再構築

【今後の取組み】

- ・法人リスクマネジメント委員会と学内リスクマネジメント委員にて現体制の検証を実施し、事案フェーズ事に遅滞なく適正な対応がとれる様に、最新マニュアルの整備および体制の再構築を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	A
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

・専修学校設置基準、養成施設指定規程に則り、また、教育上の必要性に対応した施設・設備として実習室や演習室を整備しており、定期的に点検・管理を行っている。

・視聴覚教材についても学修に必要な備品を整備している。

・各学科の学修目標に沿った参考図書や関連図書を備えた図書室を設置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

現況維持、継続する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

- ・実習施設については、施設および実習指導者に関する要件が定められている養成課程においては、指定規則を遵守し、実習指導者会議を開催して、情報共有ならび学びの場を提供している。また、要件が特に定められていない学科に関しても、実習の環境も含め妥当性を検討し、教育体制を整えている。学外実習は、担当者と受け入れ企業との間で覚書や契約書を事前に交わし、研修内容や安全性について確認を行なっている。また、実習前研修、実習中の巡回や面談指導を行い、実習後にも振り返りや報告会を実施する体制を整備している。
- ・学校における安全管理の整備については、防火避難訓練をはじめとして適宜点検を行ない、防災・防犯のマニュアルを作成して周知している。

【課題】

火災に関する避難訓練は、学生を動員して実施している。避難訓練の実施時期に関する検討も続けているが、授業時間等の制約があり、年度初めの実施ができておらず、避難経路の確認に留まっている。

【今後の取組み】

学校における安全点検については、防災訓練を定期的に行なっている。台風、大雨や地震対策の訓練など、近年の自然災害への安全対策を更に強化する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

- ・学生募集については、アドミッション・ポリシーや学費、募集定員などを募集要項や Web サイトにて公表し、学校としての学生受け入れの方針を明らかにしている。
- ・募集活動において、資格・検定などの結果を報告するとともに、就職実績についても保護者をはじめ参加者にパンフレット等を配布している。ただし、検定結果については、最新ではない情報の掲載があり、改善する必要がある。
- ・入学者選考は、公表している選抜方法に則り、公平かつ適切に実施している。オープンキャンパスでは、希望者に特待生筆記試験問題(過年度)を提供している。
- ・入学者の選抜実施方法や選考基準を設け、この基準に沿って複数の教職員で選考を行っている。
- ・学生納付金は妥当性を理事会等で審議・決定し、募集要項に明示している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

資格取得や就職実績などの教育成果を利害関係者へタイムリーに発信し更なるブランド価値を高める。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	B
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	A

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

- ・年度予算を作成し、設備投資予算等を含め本部にて承認をおこなう。毎月、勘定項目および予算の執行状況を確認し報告している。会計監査（内部・外部）体制については、学校法人が公共性を担保するために、会計監査法人による監査と監事に寄る監査体制を敷いて適切に運営している。毎年度公認会計士による監査を受け、監査報告書による監査結果を得ている。
- ・毎年、予算編成・計画立案に関するヒアリング後、予算計画を立てている。予算執行に伴う効果を管理表を元に分析・検証している。
- ・私立学校法及び寄付行為に基づき、会計監査を実施している。監査報告書を作成し、理事会へ提出している。
- ・財産目録、事業報告書については、利害関係者は閲覧することが可能な体制になっている。監査報告書、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書は Web 上で公開している。固定資産管理運用基準を設け、その基準に従って運用している。

【課題】

少子化やエリア特性により在校生が減少して収入と支出のバランスがとれていない。

【今後の取組み】

教育の質の担保を図るために教育研究費は適正に確保しつつ、間接経費を少しでも削減できるよう、予算計上の段階でさらに使途の透明性を図り執行管理を強化していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

- ・学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行なっている。法令遵守に関する啓発では、職員に対して、定例会議等で周知徹底を図っている。法令に関する研修において、知識の習得に努めている。
- ・学生便覧、学生要覧（介護福祉科）にも掲載し、教職員以外の学生にもオリエンテーションを通じて、周知をしている。

【課題】

法令に関する情報更新が教職員全てに熟知されているかを確認する機会の設定。

【今後の取組み】

法令・専修学校設置基準研修、学則・学内規程研修を未受講の教職員には、年度当初において研修時間を確保し受講させる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準 10 内部質保証

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

- ・毎年度、定期的に自己点検・自己点検評価を行い、実施結果に基づき業務等の改革・改善を行うことを基本方針とし、専門学校の質保証・向上への取り組みを行なっている。
- ・自己点検・評価については、企業や施設関係者、地域住民、保護者、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者評価委員会で報告している。また、改善項目については、委員の意見を取り入れた改善を行なっている。
- ・自己点検・評価報告書を作成後、学校関係者評価委員会で報告を行い、改善案などの意見を取り入れ、承諾を得た後、学校関係者評価報告書をまとめ Web サイト上で公開している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

課題解決に関する計画を、次年度初めの全体会議で共有し、定期的に教務会議で課題解決の進捗状況を共有する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====
基準 1 1 社会貢献・地域貢献
=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

- ・地域・施設への貢献、学びの還元を意図し、学校教育内容の特徴を活かした連携を図りながら、学生のボランティア活動や職業教育に係る活動を推奨している。施設やNPO法人、障害児施設でのボランティア参加はもちろん、小学校訪問なども積極的に取り組んでいる。
- ・「わっしょい百万夏祭り」や「サンタボランティア」など、留学生が参加できるボランティアや季節イベントボランティアへの参加者が増加した。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

ボランティア情報を可能な限りスケジュール化し、一人でも多くの学生が参加できる環境づくりを行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====
基準 1 2 国際交流
=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

- ・今年度は留学生専門学科（国際ビジネス科）の新設にあたり、担任、副担任、学生課、日本語教育センターの協力を得て、相談体制を整備している。
- ・留学生からのさまざまな相談に対し、それぞれ専門の担当部署が対応している。
- ・海外への短期、長期留学など本校独自の留学プログラムを運営し、学生ならびに保護者に説明している。受け入れの学校については、事業開発グループの職員が視察し、教育環境、生活環境ならびに治安等についても確認を行なった教育機関に限定している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

次年度は本科に複数の留学生を迎えるため、就職に関する相談に対しても就職課と連携をとり支援していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S